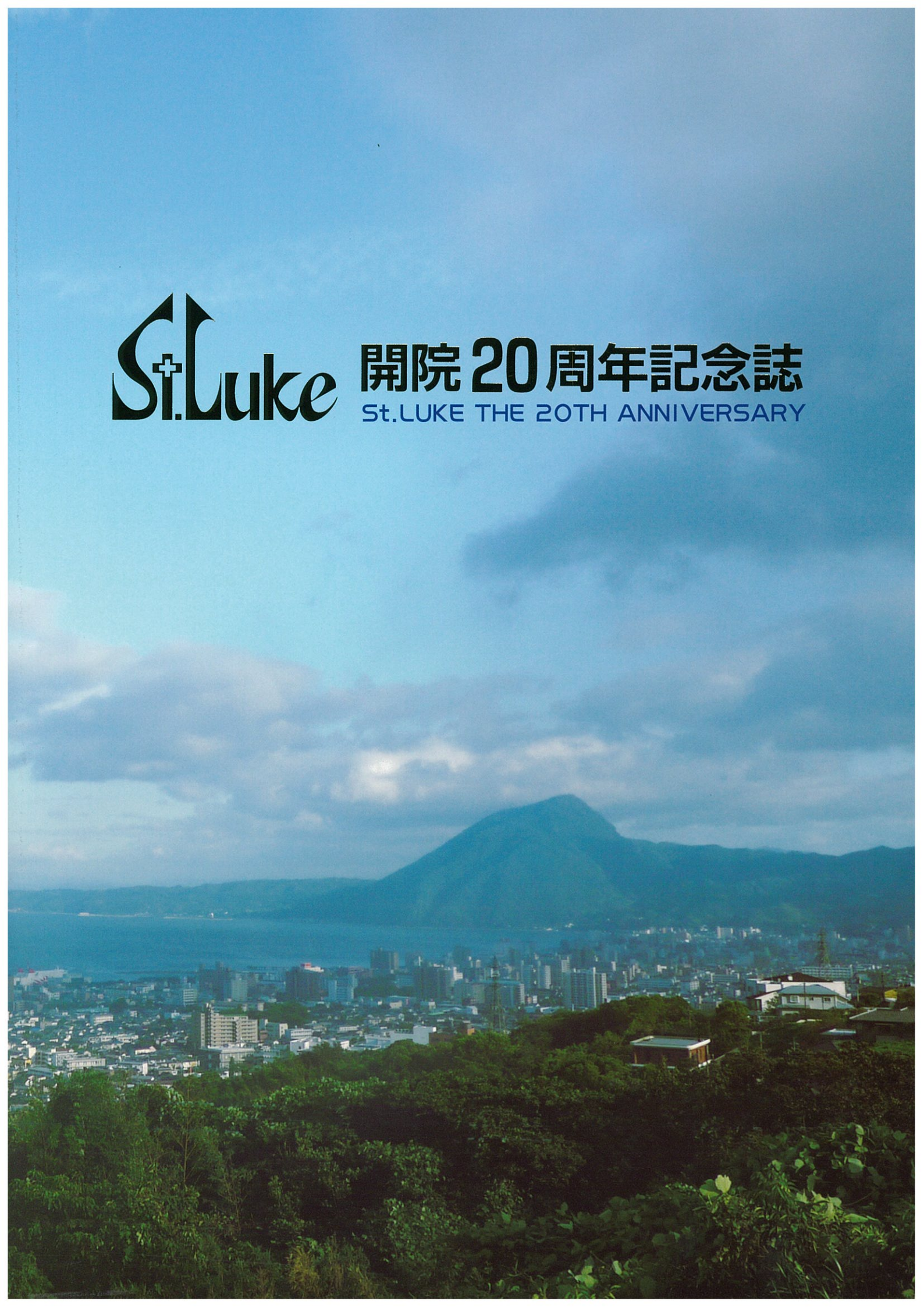
The logo for St. Luke, featuring the text "St. Luke" in a stylized, black, serif font. The "S" and "L" are significantly larger and more prominent than the "t." and "uke". A small white cross is positioned to the left of the "t.".

開院 20 周年記念誌

St.LUKE THE 20TH ANNIVERSARY





開院20周年記念誌

St. Luke The 20th Anniversary



これは我らの神の憐れみの心による。
この憐れみによって、
高い所からあけぼのの光が我らを訪れ、
暗闇と死の陰に座している者たちを照らし、
我らの歩みを平和の道に導く。

ルカによる福音書 1章78節より

病院沿革

1992年	5月28日	定礎式
	6月3日	診療開始
	6月13日	腹腔鏡手術開始
	6月27日	開院披露
	7月27日	体外受精開始
	10月1日	顕微授精装置設置
	10月6日	体外受精妊娠成功
1993年	2月1日	ミリQシステム導入
	3月25日	GIFT 妊娠成功
	6月10日	体外受精出産
	10月12日	顕微授精 (PZD) 妊娠成功
	10月22日	プログラムフリーザー設置
1994年	7月1日	凍結胚移植妊娠成功
	9月24日	ICSI 妊娠成功
	12月1～10日	研究室改造
1995年	1月1日	医療法人認定
	10月6～12日	研究室改造
	11月9日	RESA-ICSI 妊娠成功
1996年	3月7日	妊娠成功1000例
	6月1日	病院専用駐車場開設
1997年	6月21日	情報処理室開設
	8月23日	セント・ルカ産婦人科開院5周年記念祝賀会
	10月2日	HomePage 開設
1998年	4月27日	セント・ルカ生殖医療研究所起工式
	10月12日	セント・ルカ生殖医療研究所竣工式
1999年	5月29日	SarahBase 販売開始
	7月26日	(有)メディテック・ルカ発足
	10月7日	Vitrification 妊娠成功
2000年	6月30日	カウンセリング講座開講 (1回/月)
	11月30日	セント・ルカ生殖医療研究所動物舎完成
2001年	7月11日	待合室・受付改装工事着工
	10月9日	新受付・待合室完成
2002年	4月18日	新 SarahBase 再構築着手
2003年	6月	新 SarahBase 稼動
	6月	会計システム導入
	10月3日	第21回 日本受精着床学会 世界体外受精会議記念賞受賞 「ストーリーを用いた安全な 前核期胚 vitrification の臨床応用」
2004年	5月15日	第45回 日本哺乳動物卵子学会 学術奨励賞受賞 「体外受精における非受精卵の 前核形成阻害の解析」
2005年	4月1日	JISART・RTAC 認定
	8月2日	自家発電機 (停電時非常用) 設置
	8月15日	ISO9001 認証取得
2006年	3月26日	第3回日本生殖医療心理カウンセリング学会 優秀ポスター賞受賞 「40歳以上の不妊症患者を対象とした サポート・グループの取組み」
	7月	新会計システム再構築着手
	7月4日	ISO9001 外部審査
	7月10日	胚呼吸量測定 of 臨床応用開始
	8月3日	胚呼吸量測定後の胚移植による妊娠成功
2007年	2月22日	新会計システム稼動
	4月21日	吸収式冷温水器取替工事
	7月24日	ISO9001 外部審査



病院概要

名 称 医療法人セント・ルカ
セント・ルカ産婦人科
セント・ルカ生殖医療研究所

開設年月日 1992年6月3日

住 所 〒870-0823 大分市東大道1丁目4番5号
TEL 097-547-1234
FAX 097-547-1221
E-mail st-luke@oct-net.ne.jp
http://www.st-luke.jp/
http://www.st-luke.jp/imode.htm

(携帯電話用)



- 2008年** 4月2日 JISART 施設認定審査
- 6月2日 新カルテ庫工事着工
- 6月20日 新カルテ庫完成
- 7月22日 ISO9001 外部審査
- 11月8日 64th Annual Meeting of American Society for Reproductive Medicine
アメリカ生殖医学会 学会優秀賞受賞
「Clinical efficacy for IVF patients using a new evaluation with a measurement of oxygen consumption by scanning electrochemical microscopy」
- 2009年** 1月18日 第6回 日本生殖医療心理カウンセリング学会学術集会 優秀ポスター賞受賞
「治療継続のサポートのあり方
～初診時から半年以内～」
- 5月8日 第50回 日本哺乳動物卵子学会 学術奨励賞受賞
「走査型電気化学顕微鏡を用いた胚品質評価の選択的単一胚移植 (eSET) への臨床的有用性」
- 10月19日 新 Server 導入
- 10月19日 データバックアップシステム導入
- 2010年** 1月8日 河邊外来開始
《診療内容：一般不妊治療 (再診のみ)・更年期・婦人科・思春期》
- 2月22日 腹腔鏡下筋腫核出術開始
- 5月29日 第51回 日本哺乳動物卵子学会 口演部門学術奨励賞受賞
「選択的単一胚移植 (e-SET) における day 3 胚の呼吸量測定を試み」
- 8月17日 医療法人セント・ルカ新病院建築起工式
- 9月5日 島津 X 線テレビシステム導入工事
- 9月6日 島津 X 線テレビシステム稼働
- 2011年** 2月6日 第8回 日本生殖医療心理カウンセリング学会学術集会 優秀ポスター賞受賞
「胚移植不能後の説明における 胚培養士の関わり方」
- 3月1日 新会計システム稼働
- 5月18日 SarahBase 新機能導入
- 6月18日 医療法人セント・ルカ新病院竣工式
- 7月1日 セント・ルカ産婦人科新病院開院
- 7月1日 受付予約システム稼働
- 2012年** 3月17日 卵巣に関する国際カンファレンス 2012 優秀ポスター賞受賞
「DNA methylation errors at imprinted loci after ART conception originate in the parental sperm」

許可病床数 13床

職員数 総数 43名

常勤医	2名	臨床心理士	1名
非常勤医	2名	総務部	1名 (兼任)
研究室・培養室	5名	受付	5名
検査室・培養室	3名	情報処理室	3名
看護師	12名	調理士	2名
准看護師	7名	栄養士	1名

診療時間 (受付予約制)

月・水・金： 8：30～11：30
 13：30～15：30
 17：00～18：30

火・木・土： 8：30～11：30 (祝日を除く)



CONTENTS

ルカによる福音書	1	厨房より	36
病院概要・沿革	2	事務長より	37
巻頭言	6	セント・ルカセミナー	39
セント・ルカ産婦人科20周年によせて	9	資料編 I	57
開院20周年を迎えて	21	外来患者及び妊娠結果の内訳	58
医局より	22	外来患者数の統計	60
心理専門相談室より	24	入院数の統計	61
看護部より	26	入院数	62
研究室・培養室より	30	妊娠数	64
受付より	32	初診後妊娠までの期間 ほか	67
情報処理室より	34		



ART (生殖補助医療／体外受精・ 顕微授精・GIFT) による妊娠 ほか — 68	主催講演会一覧 ————— 117
ART (生殖補助医療) による妊娠 ほか — 69	院内講座一覧 ————— 124
資料編Ⅱ ————— 71	講演・講義一覧 ————— 129
スタッフ配置 ————— 72	シンポジウム・ワークショップ一覧 — 134
培養室・検査室の流れ ————— 73	見学・講習会参加一覧 ————— 136
資料編Ⅲ ————— 77	学会・講演会参加一覧 ————— 145
セント・ルカ産婦人科 20年のあゆみ — 78	行事一覧 ————— 162
学会発表一覧 ————— 79	セント・ルカ産婦人科主催講演 および活動説明 — 182
受賞一覧 ————— 109	新聞記事より ————— 185
論文一覧 ————— 110	写真で振りかえるセント・ルカの20年 — 193
著書(共著)一覧 ————— 114	新病院に向けてのあゆみ ————— 206
翻訳一覧 ————— 116	写真で振り返る新病院引越し ————— 208



院長
宇津宮 隆史

開院してはや20年になった。そして昨年(2011年)7月に新病院に移転して1年が経過しようとしている。15周年誌を見ても移転の言葉はどこにも見られない。それほど移転の計画は突如としておこり、急速に進んだということを示す。それについてはルカ新聞に書いたが、発端はイエス様のお導きによると信じてよい経過を示している。そして2011年7月1日からここで新たな展開を期して活動を始めたが、ほぼ満足のいく結果が得られてきていることを幸せに思う日々である。

さて、「生殖医療とは何か」という問いを抱えて39年間、いろいろな方面からアプローチしてきた。当院のこの20年間の活動を一つ一つ吟味していくうちに、おのずと浮かび上がってきたことがある。それは、生殖医療とは不妊ご夫婦のためだけでなく、むしろ、まだこの世に生まれていない子供のためにあるということである。生殖医療とは、生殖医療を必要としている患者さんご夫婦とわれわれ生殖医療従事者のチーム・ワークでまだ見ぬ子供のために最善を尽くすということである。以前からわれわれは、生殖医療を行うものは、周産期医療、小児科領域にも関心がなくてはならないと訴えてきた。さらに、生まれてきた子供たちが健康で幸せな生活を送ることが重要であり、最終的には一人前の社会人として世の中で活躍することを目標とすべきであろう。そのためには、まず、基本に戻って考えねばならない。それ

はご夫婦の関係である。夫婦が楽しく幸せな生活を送っていなければならない。その上でさらに子供を望む。そして健康な妊娠期間、安全な出産、希望に満ちた子育てへとつながっていかねばならない。そのためには、ご夫婦が健康でなければならない。親になる資格を得ていなければならない。われわれはそれらの状況を把握、確認し、検査、治療を行うべきであろう。20年も経過すると当院で生まれた子供たちも20歳近くになっている。その子供たちが気にかかる場所であるが、特に今年春には複数の子供が医学部に合格したとのニュースが入ってきている。先が楽しみである。

そのような明るい面もあるが、日常診療において、持病を抱えているにもかかわらず子供を望むケースがある。こういうときにはその疾病の主治医に妊娠の可否を問い合わせることを基本としているが、ファジーな場合も多く(むしろこちらが多い)、検査、治療に躊躇する場合もある。このご夫婦に子供ができたときにその子供は果たして幸せになれるだろうか。さらにこの数年、非配偶者間人工授精(AID)で生まれた人たちのグループと親しく交流を持ってきた。この方たちは20歳代から40歳代になってはじめて親からその事実を告知されていた。その結果、全員が強烈なショックを受け、精神的トラウマを抱えることになり、いまだに抜け切れていない。その方々は全員がAIDはあってはならない技術であると述べている。しかし、ヨーロッパ、オーストラリア

の例から、AIDで生まれた場合、物心つく頃から何度もその事実を話してあげるとそれほどのショックを受けることなく、成長するといわれている。このように非配偶者間生殖医療は行うべきではないが、行うとすればこのような早期からの事実の開示、周囲へのサポートなどを考慮して行うべきであろう。またそれで生まれた子供の権利の保障は特に法的にはまだまだ不十分であり、早急に整備されねばならない。この法的整備については衆議院議員の野田聖子氏らがすでに取り組みを開始している。多方面からの検討が必要である。

また、2年前から別府市の児童養護施設のお世話をするようになった。このような施設の子供は以前では「孤児」であっただろうが、今は全員が両親はいるが家庭崩壊の結果で、ほとんどが被虐待を経験している。子供には何の罪もない。このような状況が危惧される夫婦、環境であるならば、こうなるであろう子供を生んではならないのである。もちろん当時はそのようなことは思いもつかなかったであろうが。

さて、現在までに生殖医療で生まれた子供の健康についてはどのようなものでしょうか。各年度別に日本産科婦人科学会が全国集計を行い発表しているが、それは分娩時の結果のみであり、長期予後にわたった報告は無い。2005年に日本受精着床学会が、ARTで生まれた5歳児（1997年生

まれ）の健康調査を行った。全体で1,837名のうち、809名（44%）についての調査であった。その結果、ARTで生まれた児については特別に自然妊娠児に比較して大きな差はなかったとされている。その後、ART児の長期予後についての調査は行われていなかったが、2011年度から、厚生労働省の科研費を用いて慶應義塾大学 吉村泰典教授班とJISARTを中心とした生殖医療クリニックグループにその他の施設を加え、生殖医療で生まれた子供3,000人を15歳まで長期調査を行うことになった。このような多数を対象とした長期調査は世界的に見ても例は無く、その結果が待たれる。われわれは積極的にこの研究に参加しなければならない。

新病院では、以前に比べ、待合室を2倍、病室を1.5倍の広さに、また、クリーンルームは3倍のクリーン度にした。採卵室を2部屋に、待合室は吹き抜けとした。患者さんが緊張するであろうレントゲン室、採卵室、手術室の壁は、私が撮った山や海中の写真でレイアウトした。大分駅から歩いて2分、理想的な場所と設備を得ることができた。これもイエス様のお導きとお守りによると信じている。更にまた20年、この地で思いっきり自分の考える理想的な生殖医療を行うことを、イエス様のお助けを得て実行したいと考えている。



エジプト